

北海道遠別農業高等学校の行動計画（グローバル・アグリハイスクール宣言 Part II）

全国の農業高校の行動計画		学校において令和6年度に重点化する取組及び具体的方策			
「5つのミッション」	「8の行動計画」	行動計画の中で重点化する取組	実現状況	課題	評価
I グローバル教育で人材を育てる学校	1 「生徒一人ひとりを一層輝かせ成長させる教育」を行います。	○基礎基本の定着や教科内プロジェクトを充実させ、思考・判断・課題解決の力を伸ばす。	観察や実験・実習をと おして実践力が身につく よう記録や振り返りに重 点をおいた教科内のプロ ジェクトを実施すること ができた。	教科内プロジェクト で身につけた実践力を 授業内で生かすことが できる生徒の育成が必 要である。	4
	2 「世界と日本をつなぐグローバル教育」を行います。	○海外と日本の比較を意識した教育を推進しつつ、海外研修で国際的な視野を定着させる取組を行います。	3年生の海外研修の中 で農業施設の視察やその 国の文化に触れることで 国際的視野を持つ生徒の 育成に繋がった。	海外研修で習得した 国際的な視野を地域の 課題解決に活かすこと ができる生徒の育成が 必要である。	4
II 地域社会・産業に寄与する学校	3 「地域農業の生産を支える教育」を行います。	○これから地域農業を支えていく若い農業者や農業改良普及センターと共同で地域農業について考える機会を設ける。	「ファーマーズトーク in るもい」に参加し、4 Hクラブ、留萌振興局と 地域課題の解決について 意見交換することができ た。また、その中でプロ ジェクト中間発表を行 い、質問や意見を頂い た。	開催時期の調整や学 校での農業学習と地域 農業との繋がりを持た せた事前学習の実施、 事後指導の充実が必要 である。	5
	4 「地域の農業関連産業や6次産業化に寄与する教育」を行います。	○地域の名産品になるような商品開発やふるさと納税の返礼品の開発を強化する。	羊肉まんを開発し、販 売することができた。ま た、ふるさと納税返礼品 として、これまでの「メ ロン」に加えてもち米、 タマネギを提供し地域貢 献と生徒の学習意欲の向 上につながった。	現在開発中の製品の 完成と、既存生産品の 品質向上を実現し、販 売会や、ふるさと納税 返礼品が実現出来るよ う取り組む必要がある。	4
III 地球環境を守り創造する学校	5 「地球環境を守り、創造する教育」を行います。	○農業の与える環境負荷について正しく理解させ、持続性のある栽培・飼養管理を実践する。	「作物」の授業で有機 JASやASIAGAP認証に関する 学習を生徒主体で行えるよ うに授業展開することが できた。 また、他の科目におい ても、日頃の授業や実習の中 で農業と環境負荷について 意識させ指導することが できた。	生徒が主体的に農業 生産と環境負荷について 考え議論し、実践でき る環境づくりが必要で ある。	4
	6 「地域資源を活用し、地域振興の拠点となる教育」を行います。	○地域資源活用や地域振興にむけて総合的探究の時間を活用し主体的に取り組む環境を構築する。	総合的探究の時間で実施 するプロジェクトテーマ において地域資源の活用や地 域発展にむけた商品開発に ついて取り組む事で、地域 振興に関する興味関心が向 上し、主体的な活動につな げることができた。	地域資源の活用や地域 振興の取り組みが、一 部の生徒にとどまってい た。	5
IV 地域交流の拠点となる学校	7 「Society5.0の時代に応じた教育」を行います。	○ICTを活用したスマート農業を実践し、データを集積するとともに、地域への技術還元と情報発信を活発化させる。	水田の自動水位設定装 置や羊舎のカメラを活用 することで適切な管理体 制を構築することができ た。また、先端技術とし てドローンによる湛水直 播試験を初めて実施し た。	学校がICT技術をはじ めとする先端技術を学 ぶことができる場とな り、地域に還元してい けるよう取り組んでい く必要がある。	4
V 地域防災を推進する学校	8 「地域防災を推進する教育」を行います。	○各種災害や感染症に対して適切な対応が取れる能力を育てます。	学校安全計画や危機管 理マニュアルの見直し、 点検を実施するとともに 「1日防犯教室」を開催 し、生徒自身が様々な場 面で危険を予知、回避す る能力の向上に繋がる取 組を行った。	生徒が地域防災につ いて自ら考え計画し行 動できる体制を構築す る必要がある。	5